

2016年度 自己点検・評価【内部質保証】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年2月23日

2021年度に向けた目標

主管部局	学長室	担当部局	学長室 総合企画部
------	-----	------	--------------

【A票:内部質保証に関する方針】

(タイトル)

【関西学院自己点検・評価規程】

- 「教育研究水準の向上を図り、学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営等の状況について自ら点検及び評価を行う。」
- 「法人・大学等及びその各部局は、自己点検・評価結果に基づき、その教育研究活動等について改善が必要と認められた場合は、その改善に努めなければならない。理事長等は、総括結果を法人等の年度計画及び中長期計画に反映させるように努めなければならない」(第9条)

【自己点検・評価を推進するうえでの視点】

- 高次でより自律的な教育研究の質向上、実質的に効果を上げる取組み**
自らの教育研究活動及び管理運営等の取組みについて、教職員が自律的且つ積極的に、本学の個性や専門分野の特性、国際通用性の観点等からの点検・評価を行い改善点を明確にすることで、学院全体の諸活動の質向上を図り、学院の目的及び社会的使命達成に寄与する活動とする。
- 本学の理念・目的、教育研究目標、各方針から自己点検・評価の行動計画までを構造化し、関係性を明確にした取組み**
各部局の自律性に配慮しつつ、本学の理念・目的、目標と整合性が取れた自己点検・評価の取組みを推進することで、学院全体として理念・目的の実現に向けた一体感のある、高い水準の取組みとする。
- 客観的・合理的データに基づいた取組みの推進**
信頼性の高い質保証を行うため、客観的で合理的なデータによって本学の教育・研究の質を示す点検・評価活動を行う。そのためには、データを開発・収集・蓄積し常に進捗状況を数値等によって確認できる仕組みを構築することで、自らの証明能力を高めていく。
- 学院全体での教育研究活動・管理運営の改善に繋がる取組みの共有、展開**
自己点検・評価の取組みを通じて明らかになった教育研究活動や管理運営上の課題や好事例は、関西学院評価推進委員会を通じて全学で共有し、必要な場合には助言・勧告を行い学院内諸施策に展開することで学院全体の改善に繋げる。
- 環境変化に応じた目標、行動計画等の見直し**
本学の教育研究目標や各種方針、自己点検・評価の行動計画等は、適宜見直しを行うことが可能な取組みとすることで、学院を取り巻く社会環境等の変化に即応した点検・評価活動とする。
- 適切性を担保するための第三者評価の実施**
本学の教育研究活動及び管理運営の取組みに関する自己点検・評価の適切性が確認されるよう、学内教職員と学外有識者による第三者評価を実施す
- 積極的な情報公開による社会への説明責任**
本学の社会的責任を果たすため、自己点検・評価結果を公表する。
- 認証評価機関による認証評価への対応**
社会に対して本学の教育の質を保証するため、第三者評価機関による認証を得る。
- 「質」の文化の醸成**
内部質保証の取組みが日常的な活動として学院に根付き、自律的かつ恒常的な改善の取組みが継続されるよう、自己点検・評価および関連する諸施策を積極的に展開する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

関西学院の教育のさらなる質向上に資する自己点検・評価制度への進化

- 2015年度からスタートした第三期認証評価を見据えた「自己点検・評価」の質向上プロセスの完成度を高める。
- 「第四期認証評価を見据えた自己点検・評価制度」に向けて、国際通用性等を視野に入れ、更に質向上プロセスを改善・改革する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	①認証評価(2020年度受審)における評価結果 ②各部局での内部質保証システムに関するアンケート(毎年度調査(質文化の醸成含む))	評価尺度	A:①認証評価で高い評価を得る/②全学部等部局において内部質保証システムが有効に機能している(すべての部局が肯定的な回答をしている)	変更有無
	<変更時記入欄>		B:②肯定的な回答が8割 C:②肯定的な回答が6割 D:②肯定的な回答が4割	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)	目標設定のしくみの構築(各学部等部局による目標設定)	—	①:— ②アンケート結果:D	①:— ②アンケート結果:C	①:— ②アンケート結果:B	①:— ②アンケート結果:A	①:A ②アンケート結果:A	①:— ②アンケート結果:A	有・無
	2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> —	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> B				
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> —	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 以下のとおり						

【2016年度の進捗状況について】 ←

当初の計画通り、目標再設定および進捗評価の確認のしくみを確立し、大学全体、各学部・研究科、聖和短期大学それぞれについて以下のとおり2016年度の取組みを推進している。
【大学全体】2015年度に策定した大学全体及び機構・センターの方針や目標等について全学的な視点から整理し直し一本化、その上でA票およびC票で進捗評価を実施
【学部・研究科、聖和短期大学】2015年度に策定した方針や目標等についてA票およびC票で進捗評価を実施
その他、第三期認証評価に向けて、情報収集等を行っている。
各部署等への内部質保証に関するアンケートを、2017年2月17日の内部質保証検討会にて出席者(61名)を対象に質問紙を用いて実施。33名からの回答を得た。「内部質保証」に関する理解が深まった」という設問に対し、「該当する」との回答が7名、「おおむね該当する」との回答が21名となり回答者の84.8%が肯定的回答だった。
昨年度の自己点検・評価で指摘を受けた内部質保証の機能化については、2016年秋に公表された大学基準協会の第三期サイクルの評価の視点等も踏まえ、今後改めて内部質保証に関する学内の規程や仕組みの変更について検討を進めていく。検討の中では、全学的な課題を学内構成員が構造化した上で共有し、課題解決に向けた取り組みを実践できる仕組みづくりを進めていく予定である。

<変更理由記入欄: 評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

http://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_m_001630.html

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・適切であると思われます。(B)
- ・次期認証評価(2020年度)に向けて、毎年度の自己点検・評価を積み上げている関学の活動は持続的なものとなっており、高く評価されるものと考えられます。
- ・一方で、各部署へのアンケート結果(内部質保証システムが有効に機能している)の肯定的な回答が4割、ヒアリング調査(学内データが有効に活用されている)の肯定的な回答が6割という学内の評価は真摯に受け止めて、内部質保証に関する学内の課題を掘り下げつつ理解を深めていく必要があるとみられます。
- ・今後は「国際通用性のある評価制度」、「総合学園にふさわしい学校評価システム」という2つの観点から、さらなる高度化が重要になってくると考えられ、その2つの方向性についての調査にも着手されている点に期待します。(C)
- ・毎年度、より取り組みが進化できていることは評価できる。(D)
- ・内部質保証のための作業は、これまで着実に進められてきました。今後、第三サイクルに向けて、各部署の発展に結びつくような準備が進められることが期待されます。(E)
- ・内部室保証についての専門的知識が十分に専任教職員に理解されているかどうかはまず問題であり、認知度・理解度を高めるために、この点を評価指標する必要があるかの検討が期待されます。(F)
- ・第3期認証評価結果が高評価になることを期待しています。(G)
- ・ガイドラインの作成・提示ができたことは評価できます。(I)
- ・より実質的かつ簡易でわかりやすい内部質保証システムの検討が望まれます。(J)